

【資料3】

令和元年度

第1回

香南市産業振興計画推進分野別部会からの報告書

・ 農業部会	1 ～ 5 ページ
・ 林業部会	6 ～ 8 ページ
・ 水産業部会	9 ～ 12 ページ
・ 工業部会	13 ～ 16 ページ
・ 商業部会	17 ～ 21 ページ
・ 観光部会	22 ～ 26 ページ
・ サイクリング専門委員会部会	27 ～ 31 ページ

部会開催日:H31. 4.25(金)

## 令和元年度 第1回 香南市産業振興計画 農業部会報告書

(H30 年度の取組に対する評価と今後の取組の方向性)

◇ 部会委員   ◎ 部会長   ○ 副部会長

	氏名	所属	出欠
1	◎ 竹内 淳	JA 高知県香美地区園芸部	出
2	○谷間 久昭	香南市認定農業者連絡協議会	出
3	石丸 典男	JA 高知県香美地区果樹部	出
4	百田 彰和	香南市有害鳥獣被害対策協議会	出
5	鍵山 貢	JA 高知県香美地区 香美営農経済 センター (販売営農指導課)	出
6	日和崎 一弘	高知県農業共済組合香美支所	出
7	吉本 良太	高知県中央東農業振興 センター農業改良普及課	出
8	山本 茂夫	香南市農業公社	欠
9	山崎 義道	高知県計画推進課	欠
10			

	氏名	所属	出欠
1	野島 浩一	農林課	出
2	猪原 一幸	農林課	出
3	小松 大洋	農林課	出
4	伊野 広高	農林課	出
5	山本 直史	農林課	出
6			
7			
8			

### ☆ 農業部会の開催内容(例)

1. 開 会 あいさつ
2. 自己紹介
3. 委員長の選任 (部会長は竹内氏、副部会長は谷間氏が就任。)
4. 産業振興計画の説明
5. 議事進行
  - ① H30 年度の取組について
  - ② R 元年度の取組について
  - ③ 第 2 期計画に向けた取組について
6. その他 (年間スケジュールなど説明)
7. 閉 会

## ○『目標数値』に対する精査について【PDCA】

### 【P】（目標値）

- ◇ H30 年度数値目標：『新規就農者数 12 人 /年』
- ◇ 実績値：『新規就農者数 9 人 /年』
- ◇ 評価：『B』

### 【D】（実行内容）

- 東京や大阪で開催される「新農業人フェア」や「高知農に就くフェア」、「高知暮らしフェア」などの参加に加え、高知市のイオンモールでも就農 PR 活動を実施。
- 新規就農者向けの実践型研修ハウス 10a を 3 棟建設。

### 【C】（チェック/確認）

- 就農相談は 10 件あったが、就農を容易に考えている人や、今後の予定を立てられない人が多く就農までには至っていない。
- 東京や大阪でも行った各フェアにおいて、高知県に移住し、農業をしたいという相談はあったが、香南市の移住に結びついていない。
- R 元年度より農業に関する地域おこし協力隊を 2 人確保することができた。
- 農業は、肉体労働であり、所得に繋がらないイメージを思われている。

### 【A】（アクション /改善）

- 更なる PR 活動を行い、活動内容や農業のすばらしさを伝えていく。
- 農家も農作業以外の時はきれいな格好をして、稼ぐ農家のイメージを定着させていくような取組を検討し、就農希望者へのアプローチを継続して推進していく。

## ○ 各事業の取組の精査

### 【主な意見】

#### ◇ 担い手育成センター研修支援事業

- センターを卒業した者で、経営がうまくいっていない者がでている。講義の中で経営学を教えているのか。
  - ・ 経営学のカリキュラム等もある。

#### ◇ 実践型研修ハウス整備事業

- ハウスの貸出しは1人 10aと聞いているが、ニラは 10aでは生計が立てられないので希望者が少なくなるのではないか。
  - ・ ハウスが空いていれば1年単位になるが2棟目を貸し出すことはできる。
- ハウスはニラを栽培するのに適した構造となっているが、ニラ以外の品目を栽培する設備として環境制御装置は導入しないのか。
  - ・ 農業活性化地域協議会労働力部会で協議をした結果、新規就農者にいきなり特別な装備を付けるのはどうかという意見があり装備していない。ただし、今後いろいろな意見を聞き、必要であれば導入の検討もしていかなければならない。

#### ◇ 有害鳥獣被害対策

- カラス等は大幅に目標数値に届いていない。
  - ・ 市街地で発砲することができない。また、銃弾の値上がりもあり積極的に撃てない状況である。今後補助金なども検討してもらいたい。

## ○ 第2期産業振興計画に向けての意見等

次期計画に向け、現在の数値目標に結びつく事業とそうではない事業をさび分けることが求められる。

このことから、生産性向上に繋がる施策、農家の高齢化、担い手不足に対する施策、耕作しやすくする施設整備に係る施策等に分け、地域農業の底上げを図っていく数値目標の設定を心掛ける必要があることを確認。

## ○ 総 評

数値目標である「新規就農者の確保」は数字的に伸び悩んでいるが、東京や大阪で開催される「新農業人フェア」や「高知農に就くフェア」、「高知暮らしフェア」等に引き続き参加し、県外からの新規就農者の獲得に努めていく。

また、農家への環境制御装置導入普及事業や産地パワーアップ事業を活用し先進機器の導入を推進し、生産基盤の向上に向けた取組に努め、「就農地を香南市にしたい」という魅力のある産地づくりに繋げ、『新規就農といえば香南市』となるような取組を進めていく。

また、既存農家の労働条件の改善のため、水路・堰の改修を進め、今後発生件数が増加してくると予想される災害復旧の支援にも力を注いでいく。

部会開催日:H31. 4.25(木)

## 令和元年度 第1回 香南市産業振興計画 林業部会報告書

(H30 年度の取組に対する評価と今後の取組の方向性)

◇ 部会委員   ◎ 部会長   ○ 副部会長

	氏名	所属	出欠
1	◎三谷 幸寛	香美森林組合	出
2	○西岡 洋典	高知県中央東林業事務所 振興課	出
3	清藤 好弘	香美森林組合	出
4	別役 瑞久	林道愛護員 (香我美町)	出
5	恒石 健一	林道愛護員 (夜須町)	出
6	久保 肇	ウッドライフ	欠
7	井上 美穂	高知県森と緑の会	出
8	堀田 幸生	バードカービング作家	出
9	齊藤 弓子 (山崎 義道氏 の代理出席)	高知県産業振興推進部 計画推進課	出

	氏名	所属	出欠
1	野島 浩一	農林課	出
2	猪原 一幸	農林課	欠
3	小松 大洋	農林課	出
4	徳久 歩未	農林課	出
5	児玉 亮太	農林課	出
6			
7			
8			
9			

### ☆ 林業部会の開催内容

1. 開 会
2. 委員委嘱
3. 自己紹介
4. 議 事
  - ① H30 年度の実績及び評価について
  - ② R 元年度の取り組みについて
  - ③ その他
5. 閉 会

## ○『目標数値』に対する精査について【PDCA】

### 【P】（目標値）

- ◇ H30 年度数値目標 : 『 森林境界明確化 50 ha /年 (延べ 420.00ha) 』
- ◇ 実 績 値 : 『 森林境界明確化 22.71 ha /年 (延べ 120.71ha) 』
- ◇ 評 価 : 『 C 』

### 【D】（実行内容）

「森林整備地域活動支援交付金」を活用し、当初、「夜須町沢谷地区」において、森林境界明確化を実施予定であったが、豪雨等の自然災害により、「香我美町撫川地区」に対象地を変更して実施した。

変更された対象地においても当初は 50ha を予定していたが、所有者の同意が得られなかったことから 22.71ha の実績値となった。

森林境界明確化を実施するうえで障壁であった森林所有者の特定については、香美森林組合と「所有者不明の森林の一覧表」を共有し、森林法第 191 条の 2 を根拠に当市税務収納課の情報を活用し、市から現在の所有者に案内文 2 件送付し 1 件から回答があったが隣接する森林で同意が得られなかったため、実績には繋がらなかった。

### 【C】（チェック/確認）

課題

- ① 登記されていない森林が多く、現在の所有者を特定することが困難である。
- ② 森林境界明確化事業は、所有者の同意が必須であり、同意が得られない場合、隣接する全ての森林で事業を実施できなくなる。しかしながら、隣接する森林の所有者間で確執があるなど個人的な問題もあり、計画通りの推移を保てていない。

### 【A】（アクション /改善）

#### ① 所有者の特定について

所有者が不明な森林については、今後も当市税務収納課の情報を活用し、案内文を送付する方法で対応していく。

#### ② 所有者の同意が得るための改善方法について

事業への理解を得るため、香美森林組合及び香南市が直接、所有者に説明を引き続き実施して

いく。

## ○ 各事業の取組の精査

### 【主な意見】

#### ◇ 登記されていない森林が多いことについて

- 森林を登記することに関心がない人が多い。  
行政として、所有者(特に高齢の方)に対して「登記の必要性」を周知し、登記を促す。

#### ◇ 所有者に対する事業説明の方法について

- 登記情報を元に特定した所有者に対し、事業の説明会を開催し、事業の内容や「補助金を活用するため、費用は発生しない」事等を説明している。  
その後、実際に所有者と現地で立会し、境界を確定している。  
説明会に来られない所有者に対しては個別に訪問し、説明を行う場合もある。

#### ◇ 間伐について

- 間伐を実施することで、植物の生態系(絶滅危惧種等)の保全や、災害の防止にも繋がる。
- 「緊急間伐総合支援事業」は国の補助がある場合は金額が高いが、基準が厳しい。  
一方、県単独補助の場合、金額は低いが事業体でなくても使いやすい。  
実際、佐川町などではIターンの人々が県単独の補助を活用し、収入をあげている。
- Iターン者等の移住者の中には、小規模林業をしている人たちがおり、森林内に何本も作業道を抜いて、どこに切り倒しても運びだせるように整備し、年間数百万円の収入を得ている人もいる。  
小規模林業を推進していくのであれば、香南市の山は比較的傾斜が緩やかなので推進しやすいのではないかと。

#### ◇ 森林山村多面的機能支払発揮交付金について

- 現状、香南市外の組織が香南市内の竹林を整備している。  
今後、市内で組織を立ち上げ、活用できないかを部会内で検討することを確認。  
今回検討する中で、下記のことについて情報をいただいた。
  - ・ 当交付金は人件費にも充当することができるため、市内の組織化を目指すうえでは活用をしていただきたい。
  - ・ 林業は危険が伴うため、安全配慮やある程度の経験が必要である。組織の構成員には一定の経験を持ち合わせる方で組織化を目指すべきである。



#### ◇ 木育事業について（R 元年度より新規追加）

- 森林境界明確化の同意が得られない、登記がされない理由として、森林や林業に関心が薄いことも考えられる。今年度より、幼少期から中小学校の生徒等を対象として、「森林体験学習」を行い、森林や林業への関心を高めていく。
- 森林体験学習は、県の森林環境税や森と緑の会の募金を活用することもできる。「山の学習支援事業」は、生徒数に応じて金額の上限が決まり、100%補助である。今後、教育委員会と連携し、事業を実施していく。

## ○ 第 2 期産業振興計画に向けての意見 等

森林環境税の活用方法も加味しながら、目標数値の見直しを含め次期計画の策定に向けて検討を行い、それに紐づけられる取組の整理を行っていくことを確認。

## ○ 総 評

第 1 期香南市産業計画 林業部会の目標数値である「森林境界明確化」については、5 年間で 600ha の実施を予定していたが、4 年間の実績値が 120.71ha であり、目標値の達成は極めて難しい状況である。

今年度を実施を予定している 50ha については、計画通りに実施できるよう、課題である「森林所有者の特定」や「事業の説明」等をすすめていく。

また、境界明確化事業に限らず、林業全般に関する事業に対し、森林の所有者からの理解や関心が得られるように事業内容や補助金制度の周知に加え、木育事業をきっかけとして林業に興味を持っていただく取組を進め、普及・啓発を行っていく。

部会開催日:R元. 5.8(水)

## 令和元年度 第1回 香南市産業振興計画 水産業部会報告書

(H30 年度の取組に対する評価と今後の取組の方向性)

◇ 部会委員    ◎ 部会長    ○ 副部会長

	氏名	所属	出欠
1	◎山下 太造	高知県漁業協同組合 赤岡支所長	出
2	○仙頭 美香	高知県漁業協同組合 手結支所長	出
3	本田 和仁	赤岡バッチ組合船主会 会長	出
4	野村 操	吉川町バッチ網船主会 会長	出
5	浜口 信義	手結地区漁業者(シイラ漁)	出
6	中山 勝道	住吉地区漁業者(養殖業)	出
7	北垣 博則	ジャコ加工業者	出
8	加地 正人	シイラ加工業者	出
9	飯田 新	高知県水産振興部 中央漁業指導所 所長	出
10	齋藤 弓子	高知県計画推進課 地域支援企画員	欠

	氏名	所属	出欠
1	岡林 栄一	商工水産課	出
2	猪原 加江	商工水産課	出
3	小林 辰徳	商工水産課	出
4	澤田 卓	商工水産課	出
5	川西 貴祥	商工水産課	出
6			
7			
8			

### ☆ 水産業部会の開催内容

- 1.開 会
- 2.水産業部会 新委員のあいさつ
- 3.委員長の選任 (部会長は山下氏、副部会長は仙頭氏が就任。)
- 4.産業振興計画の説明
- 5.議事進行
  - ① H30 年度水産業部会の取組実績について
  - ② R 元年度の水産業部会の取組について
  - ③ 第 2 期計画に向けた取組について
6. その他 (年間スケジュールなど説明)
- 7.閉 会

## ○『目標数値』に対する精査について【PDCA】

### 【P】（目標値）

- ◇ H30 年度数値目標：『沿岸漁業総生産量 1,200t /年』
- ◇ 実績値：『沿岸漁業総生産量 1,119t /年』
- ◇ 評価：『B』

### 【D】（実行内容）

- 水産機能施設の整備(赤岡:荷揚施設設置事業等)  
水揚げの迅速化、漁業者の労力軽減による生産性の向上を図る。
- 新規漁業就業者の確保  
新規漁業就業者を総合的に支援する組織の検討・立ち上げへの協議へ参加(3回)  
平成31年4月1日(一社)高知県漁業就業支援センター設立
- かりりじゃこの給食センターへの納入検討  
納入に向けた加工業者移行調査及び給食センターによるサンプル品評価を実施。

### 【C】（チェック/確認）

- 数値目標である沿岸漁業総生産量 1,200t に対し、平成 30 年度の実績値は 1,119t となり目標達成には至らなかった。(評価「B」)

### 【目標達成に至らなかった要因(委員の意見)】

- 水産業において生産量は、特に自然条件に左右されるため目標にすることは難しい。
- 生産量をこれ以上増やすことは難しい。単純に経営体を増やすだけでは増えない。
- 単価をあげるためには付加価値をつけていく必要がある。
- 生産量より生産額が増えることが漁業者の所得向上に繋がる。
- 生産量が少なく、生産額が多いのは単価がいいことであり、それが理想である。
- 生産量が増えても販売先がないと意味が無い。

### 【まとめ】

水産業において、これ以上生産量を増やすことは見込めないのが現状であり、今後は直接漁業者の所得向上に繋がる生産額を目標とする必要がある。そのためには水産物の付加価値をつけて単価を上げていく必要がある。

## 【A】 (アクション /改善)

### 【目標達成に向けての取り組み(委員の意見)】

#### ○ 市内水産物の認知度向上

- 市内水産物の良さをイメージできるように宣伝していく必要がある。
- 加工商品に付加価値をつけることにより、単価をあげていく必要がある。
- 最終商品が高く売れないと単価(浜値)はあがらない。
- 市内事業所へ広く地元水産物をメニューとして取り扱ってもらおう。
- 単体の組織だけでなく、漁業者・漁協・事業所・観光協会など連携し、香南市を訪れてくれるように、市をあげての取り組みを考えていく。
- 漁業者の所得が上がることにより、魅力ある職業として漁業就業者もでてくる。

#### ○ シラス漁における先進地視察

- 鮮度保持等を視察することにより漁業者の意識改革を実施する。

#### ○ 地元産からりじゃこの学校給食納入への実現

### 【まとめ】

目標値を生産額へ見直しを実施し、また、生産額を延ばしていくためには市内水産物のブランド化が必要であり、そのためには関係機関と連携して市をあげての取り組みを実施していく必要がある。

## ○ 各事業の取組の精査

第1回部会では、代表的な数値目標(沿岸漁業総生産量)の妥当性について議論されたため、その他各事業の数値目標に対する議論には至らなかった。

## ○ 第2期産業振興計画に向けての意見等

第1回部会では、前年度実績の中でも意見があったように、数値目標値となる沿岸漁業総生産量については、自然に左右され、これ以上増やせないという意見もあり、生産量より生産額を目標値としてとっていくことになった。

## ○ 総 評

数値目標である沿岸漁業総生産量 1,200t に対し、平成 30 年度の実績値は 1,119t となり目標達成には至らなかったが、今回部会の中でほとんどの委員の方から、数値目標値の沿岸漁業総生産量については、「自然に左右される」「これ以上増やすことは難しい」「量を増やすより、額を増やすことで漁業者の所得が向上する」といった意見がだされ、目標値としては妥当でないとの結論に至った。

今後次期計画に向けて、直接漁業者の所得に影響する「生産額」を目標値に設定していくことになった。これに併せて生産額を延ばすための、市内水産物の認知度向上に向けた取り組み等を検討・実施していく。

その先には魅力ある職業として漁業を選択する次世代を担う後継者の確保にも繋がっていくことを目指していきたいと考える。

部会開催日:H31. 4.25(木)

## 令和元年度 第1回 香南市産業振興計画 工業部会報告書

(H30年度の取組に対する評価と今後の取組の方向性)

◇ 部会委員   ◎ 部会長   ○ 副部会長

	氏名	所属	出欠
1	◎黒原 正仁	YAMAKIN株式会社 高知管理部 課長	出
2	○澤田 保男	香南市商工会 工業部会長	出
3	川久保 武志	カワクボFACTORY株式会社 代表取締役社長	欠
4	小堀 勝幸	四国職業能力開発大学附属 高知職業能力開発短期大学校 能力開発部長	出
5	岩崎 佳世	公益財団法人高知県産業振興センター 経営支援部経営支援課 課長補佐	出
6	西村 幸祐	香南市商工会 経営指導員	欠
7	五島 一成	株式会社精工 高知工場 工場長	出
8	安藤 潮	高知県計画推進課	欠

	氏名	所属	出欠
1	岡林 栄一	商工水産課	出
2	萩野 大輔	商工水産課	出

### ☆ 工業部会の開催内容

- 1.開 会 あいさつ
- 2.工業部会 新委員のあいさつ
- 3.委員長の選任（部会長は黒原氏、副部会長は吉田氏が就任。）
- 4.産業振興計画の説明
- 5.議事進行
  - ① H30年度工業分野の取組実績について
  - ② R元年度工業分野の取組について
- 6.その他（年間スケジュールなど説明）
- 7.閉 会

## ○『目標数値』に対する精査について【PDCA】

### 【P】（目標値）

- ◇ H30 年度数値目標：『製造品出荷額 500 億円以上』
- ◇ 実績値：『製造品出荷額 397 億円』
- ◇ 評価：『B』

### 【D】（実行内容）

#### 1. 企業誘致の促進

- 県と連携して企業誘致活動を行うことで、香南工業団地の完売とルネサス高知工場が丸三産業(株)に譲渡決定し、新たに 2 社の企業立地を行うことが出来た。
- 立地企業の会社説明会・面接会を県、市、ハローワーク等と共同開催し、みすまる加工(株)への新規雇用者 9 人と、みすまる産業(株)の操業開始に必要な人員を確保し、雇用の促進を図った。
- 若年層にニーズの高い事務系職種の企業誘致を推進するため、空き店舗等を活用した商店街の活性化や移住・UIJ ターンの促進にも繋がる助成制度『香南市情報サービス施設等設置促進事業費補助金』を制定するとともに、包括連携協定を締結したイシン(株)と連携して首都圏企業への誘致活動を行うなど、新たな企業誘致の取組を進めた。

#### 2. 既存企業の育成支援

- 行政や企業間の情報交換の場として、「香我美町立地企業交流会」や「香南市ものづくり会」を開催し、各種支援事業の紹介や働き方改革、人材育成などの講演を行うことで内容の充実を図った。
- 中小企業者の生産性向上に係る先端設備の導入を支援するべく、導入促進基本計画を策定するとともに、先端設備導入計画の認定を行った。(8 件)

### 【C】（チェック/確認）

目標数である製造品出荷額 500 億円以上に向け、上記の取組を実施してきたが、平成 30 年度の実績値は 397 億円となり目標達成には至らなかった。(達成評価「B」)

新たな立地企業が増えたことと、既存企業の生産性向上により平成 29 年度の製造品出荷額(371 億円 前年比:26 億円)を上回ることが出来たものの、目標値を達成するためには既存企業の更な

る生産性向上と新たな企業誘致に繋がる以下の取組が求められる。

#### <具体的な取組>

- ① みすまる加工(株)の新規雇用者支援
- ② 丸三産業(株)の操業開始支援
- ③ 川谷刈谷工場用地への早期企業誘致
- ④ 既存企業の生産性向上に繋がる各種支援事業の充実

### 【A】 (アクション /改善)

- 上記の具体的な取組を継続して実施していくとともに、令和元年度は以下の新たな事業に取り組むことで製造品出荷額の向上を目指す。

#### <新たな取組>

- ① 旧ルネサス東駐車場の工場用地取得  
(※丸三産業(株)香南工場と川谷刈谷工場用地と一体的に企業集積を図る。)
- ② 事務系企業誘致の促進
  - ・空き家・空き店舗の物件調査充実
  - ・イシン(株)との連携による首都圏企業訪問
  - ・首都圏企業ツアーの開催
- ③ 香南市未来人材育成奨学金返還助成事業の対象業種を拡充
  - ・要項改正により製造業以外の業種も対象とし、利用の促進を図る。
- ④ 合同企業説明会の開催
  - ・市内企業による城山高校での企業説明会を開催し、地元の若者の雇用創出を図る。

## ○ 各事業の取組の精査

### 【主な意見】

- ◇ 香我美町立地企業交流会及び香南市ものづくり会
  - 合同開催により参加企業の増加を図るとともに、工業会との連携を行うことで事業案内や情報交換の充実させた懇談会となるように取り組むこと。また、企業間の交流を深めるべく、開催回数の増加の検討を。
- ◇ 香南市未来人材育成奨学金返還助成事業
  - 4年間で実績がゼロ。要綱を改正し、対象業種を拡充したとしても目標値の10件は現実的に厳しいように感じる。目標値を下げて様子を見た方がよいのではないか。



## ○ 第2期産業振興計画に向けての意見等

第1回部会では前年度実績と今年度の取組に対するご意見をいただくに留まり、第2期産業振興計画に向けての意見交換には至らなかった。

今後は第2期産業振興計画に向けての意見交流を促し、方向性を定めていく。

## ○ 総評

目標値となる製造品出荷額については、平成30年5月末で工場を閉鎖したルネサス高知工場の製造品出荷額等が大きく影響し、減少が予想されるが、工業統計による数値の反映は令和2年度以降となるため、引き続き既存企業の生産性向上に繋がる支援と、川谷刈谷工場用地への早期分譲に努めるとともに、新たに旧ルネサス東駐車場用地を工場用地として分譲することで、製造品出荷額等500億円以上を目指すこととする。

また、事務系企業誘致を加速するべく、空き店舗等の物件調査と誘致活動を継続し、早期の企業立地に繋がる取組を進めることで、商店街の活性化や移住・UIJターンの促進、地元若者の雇用の場確保を図る。

部会開催日:R元. 5. 9(木)

## 令和元年度 第1回 香南市産業振興計画 商業部会報告書

(H30年度の取組に対する評価と今後の取組の方向性)

◇ 部会委員   ◎ 部会長   ○ 副部会長

	氏名	所属	出欠
1	◎ 仙頭 秀雄	香南市商工会	出
2	○ 福井 律	お菓子と雑貨おひさん	出
3	門田 直也	(有)カーライフ マルオカ	出
4	近藤 洋好	旅館かとり	欠
5	桂 信太郎	高知工科大学	出
6	中内 健司	(株)高知銀行 野市支店	出
7	塚本 裕司	高知県商工労働部経営支援課	出
8	安藤 潮	高知県産業振興部計画支援課	出

	氏名	所属	出欠
1	岡林 栄一	商工水産課	出
2	猪原 加江	商工水産課	出
3	山下 剛	商工水産課	出

### ☆ 商業部会の開催内容

1.開 会 あいさつ

2.自己紹介

3.部会長及び副部会長の選任について

4.香南市産業振興計画について

5.H30年度香南市産業振興計画(商業分野)の取組実績について

6. R元年度香南市産業振興計画(商業分野)の取組について

7.令和元年度香南市産業振興計画関連スケジュールについて

8.閉 会

◇ H30 年度数値目標 : 『 製造品出荷額 500 億円以上 』

◇ 実績値 : 『 製造品出荷額 397 億円 』

◇ 評価 : 『 B 』

## 【D】（実行内容）

### ○ 香南市緊急融資保証料補給金事業

基本保証料率の改正による交付要綱の一部改正を行うとともに、最後のセーフティネットとして、補給金を交付し、当該事業者の経済的負担の軽減を図った。

### ○ 魅力のある商業地・商店街づくり

香南バル実行委員会を中心に市内飲食店等と連携した香南カーニバルを 11/19～11/25 に開催した。各メディア等に取り上げられたとともに、SNS や地域情報誌等で情報発信を実施。

### ○ のいち駅周辺商店アンケート調査

のいち駅周辺の事業者に対して、要望や困りごと等のアンケート調査を実施。

### ○ 空き店舗等の活用

空き店舗対策事業費補助金については、市内金融機関5件、市内不動産業者4件を対象に事業説明を実施し、周知への連携を図った。また、不動産業者が持つ空き店舗情報を集約し、情報発信するため商工会 HP に「空き店舗マッチングサイト」を開設し、集約した情報の発信を実施。

60 歳以上の経営者に対して香南市商工会が事業承継診断を実施し、空き店舗を増やさないための取組を開始。

### ○ 創業支援

平成 28 年8月に策定した創業支援事業計画に則って、事業体制の強化を図るため、窓口サポートの質を統一する「共有フォーム」及び「手順書」を作成し、ワンストップ窓口の体制強化を図った。また、新規創業者(H29.30 年度)への後追いサポートを行い、創業後の課題等について助言を行い、事業継続への支援を実施。

金融機関等が行う、創業時での融資に対して創業支援利子補給金交付事業を行っており、創業時の経済的負担の軽減を図るとともに、金融機関等への事業説明を行うとともに、れんけいこうち事業で開設した「こうち創業 village」に掲載し、周知を図った。

## 【C】(チェック/確認)

数値目標である製造品出荷額 500 億円以上に対して、397 億円となり、B 評価となっているが、この数値目標が商業分野にとっての取組の方向性と違うのではないかとの意見も多く、取組むための方向性が見えづらくなっていることを確認。

商業分野の大きな課題は、「空き店舗の活用に向けた取組」と「事業継承の取組」であるが、取組むための方向性が曖昧であり、香南カーニバルのような新規顧客の獲得に向けた取組も行ったが、問題解決に繋がる取組が行えていない。

しかしながら、H30 年度は制定後初めて「空き店舗対策事業費補助金」や「創業支援計画」の活用実績があったことから、早急に2つの課題解決に向けた方向性を再構築し、それに向けた事業を部会などで議論していくことが必要である。

## 【A】 (アクション /改善)

課題解決に向けた取組として、昨年度より開催している香南カーニバルの継続的な開催や新たな取組として「チャレンジショップ」に向けた視察など行い、事例を整理し、香南市の商業にマッチした活性化策を検討していくことを確認。

香南市の多くの商業経営者は高齢化も進み、新規整備 (IT 化やキャッシュレス化) に向けた取組への興味が弱いことから、商工会と連携し、機運を高めていくことから取り組んでいく。

香南市の移住施策「香南住む〜ず」が根付いてきており、移住者数も伸びてきている。また、地域おこし協力隊の雇用も増えてきている。

移住をステップ1として、このような方々で、「経営したい」という考え (ステップ2) を実現するための取組を図っていくことで、定住に繋がることから、第2期計画も見据えながら、部会で取組の整理を行い、行動に移していく。

## ○ 各事業の取組の精査

### 【主な意見】

#### ◇ 香南カーニバルの実績について

- 香南カーニバルについては、市内 45 店舗が参加し、商工会 HP の一部を活用し店舗情報を一元化し発信するとともに、SNS を活用し写真で視覚的に訴求する形で情報発信を行い、537 枚のチケットを販売し、各店舗での新規客の獲得につながった。
- チケット購入者のうち、4割が香南市外の方であったことから、市内へ足を運んでもらうきっかけづくりに繋がった。

#### ◇ 事業承継診断について

- 事業者の高齢化や担い手不足による廃業を未然に防ぐために、経営者のかかえる現状を把握するために実施。

## ○ R元年度の取組に向けての意見 等

#### ◇ 魅力のある商業地・商店街づくり

- 香南カーニバルについては、今年度も継続して実施するが、市の方からも継続して支援をお願いする。
- イベントをやることはすごくいいと思う。現状は、新たなファン獲得に貢献していると思うが、行政としてさらに深化を図るアイデア、例えば、香南カーニバルを移住施策につなげるアイデア等を考えてはどうかと直感的に思った。

#### ◇ 学びの機会の創出について

- HP は、10 年以上前からあり、作っていないところは研修をしても作らないと思うので、違う内容にした方がいい。また、HP は更新をせずそのまま放置していると逆にここのお店大丈夫なのかとマイナスイメージを持たれることがある。
- 現在は、SNS の広告効果が高いので、SNS の使い方などの研修がいいのではないかな。

#### ◇ 空き店舗対策について

- チャレンジショップを行ってはどうか。また、四万十市へ見学に行ってみてはどうか。
- 新たに商店街を作ってはどうか。
- 商業をやるには駐車場がないと、新規創業者は出店しない。
- 愛宕商店街では、ほとんどのお店が居酒屋などの夜間営業で、昼間よりも夜間の賑わいがすごく、変わった取り組みを行っている。

#### ◇ 創業支援

- 移住者のほとんどが県内ならどこでもいいという方が多く、一日でたくさんの情報を収集できることがすごくメリットになっている。市の方で、衣食住などの情報を一元管理し、迅速な情報提供ができるようにするべき。

#### ◇ 商業経営のIT化への取組

- 10月の消費税増税に伴い、小売業、飲食業は軽減税率に対応したレジの導入が必須であるが、市内の導入率は1/5程度である。まずは、軽減税率対応レジを導入しなければ、キャッシュレス対応はできない。

## ○ 第2期産業振興計画に向けての意見

第1期産業振興計画では、商工業分野の目標として「製造品出荷額 500 億円」となっているが、商業の目標としてはイメージがしにくく、商業分野独自の数値目標の設定が必要。

数値目標設定としては、委員の身近なところからイメージした目標の方が見えやすいのではないかな。

## ○ 総評

第2期産業振興計画に向けて、商業分野独自の目標設定を行う必要がある。

その設定された目標を達成するための施策を検討し取組むため、この1年で土台を固める協議していく。

また、商業分野の重点課題である「空き店舗」については、まずは、市内にどれぐらい空き店舗数があるのか等、データ収集を行う必要があり、そのうえで、例えば市内を各ブロックに分け、グランドデザインを描き、あるブロックには、新規創業者を応援するための「チャレンジショップの開設」を、違うブロックには、「商店街の復活に向けた取組」を、または、「全く違う新たな商業地計画を検討する」等、具体的に何を行っていくのかを検討していく。

既存の商業者への対応としては、近年増加しているインバウンドの誘客促進や対応、国による推進等に対応するためにキャッシュレス化に取り組む必要があるが、まずは、消費税増税に対応するレジ導入を商工会と連携し推進する。

創業支援については、一日でたくさんの情報を集めるといったニーズに対応するためにも、関係機関との連携強化が必要であり、関係機関に足を運び情報共有等を行っていく。

部会開催日:H31. 4.23(火)

## 令和元年度 第1回 香南市産業振興計画 観光部会報告書

(H30年度の取組に対する評価と今後の取組の方向性)

◇ 部会委員   ◎ 部会長   ○ 副部会長

	氏名	所属	出欠
1	◎森尾 美紀	香南市観光協会	出
2	○塩井 政利	香南市歌舞伎でまちおこし 実行委員会	出
3	吉村 和久	高知県立のいち動物公園	出
4	長山 哲雄	高知工科大学	出
5	岡林 順子	創造広場「アクランド」	出
6	齊藤 弓子	高知県産業振興部計画推進課	出
7	永野 裕介	土佐くろしお鉄道株式会社	出
8	坂本 辰也	リゾートホテル海辺の果樹園	出
9	北岡 智美	物部川 DMO 協議会	出
10	中村 文昭	サイクリング専門委員会	出
11	大石 祥子	香南市商工会	欠

	氏名	所属	出欠
1	岡林 栄一	商工水産課	出
2	田渕 浩平	商工水産課	出
3	小林 辰徳	商工水産課	出
4	山下 剛	商工水産課	出
5	岡田 千裕	商工水産課	出

### ☆ 観光部会の開催内容

- 1.開会 あいさつ
- 2.自己紹介
- 3.部会長及び副部会長の選任について
- 4.産業振興計画の説明
- 5.議事進行
  - ① H30年度の取組について（観光分野及びサイクリング分野）
  - ② R元年度の取組について（観光分野及びサイクリング分野）
- 6.その他（年間スケジュールなど説明）
- 7.閉会

## ○『目標数値』に対する精査について【PDCA】

### 【P】（目標値）

◇ H30 年度数値目標：『観光施設入込客数 120 万人 /年』

◇ 実績値：『観光施設入込客数 106.2 万人 /年』

◇ 評価：『B』

### 【D】（実行内容）

#### ◇ 観光の振興

##### ・ヤ・シィパーク周辺地域の活性化

自然体験型キャンペーンに向けて備品整備(SUP・テント購入)を実施。

グランドデザインを策定。

各種イベントを開催し周辺地域の活性化を実施。

##### ・manamana の取組みについて

商品開発及びアイスバー生産体制の確立・新規販路開拓及び外販を強化。

各種情報誌への掲載、新聞、メディアによる広報の充実。

各種イベントへの出店、自主事業の企画・販売。

##### ・歴史を中心とした博覧会

HP や SNS を活用するとともに、推進協議会発行の「かわら版」と連携した情報発信を実施。

絵金蔵では芝居絵屏風の公開修理等、特別感のあるイベントの実施。

冬の夏祭りとの連携強化。

アクトランドでは、県外の SA 等でのパンフレット配架に継続して実施。

##### ・観光施設間の連携

観光施設連絡会を開催し、施設間の情報共有を図る。

市内各地域の観光施設や宿泊施設等の相互交流や活動の活性化を行い、市内への誘客や周遊促進を図り、自然・体験キャンペーンに合わせた観光クラスターを形成。

インバウンドモデルコースの協議を実施。

##### ・歌舞伎でまちおこし

市主催の婚活事業と連携するなど、新たな分野との連携を実施。

小学生を対象としたワークショップを開催し、歌舞伎でまちおこしの知名度向上を図る。

##### ・塩の道を活用した取組

イベントを開催し、交流人口の拡大や地域の活性化を図る。



- ・物部川エリア広域観光連携事業

ものべがわフェスタを開催し、物部川エリアへの誘客を促進。  
認知度向上にむけた観光 PR 活動を随時実施。

- ・市民と地域資源の総力を結集したビジネス支援事業

イベントへの参加を通して県内外に香南市の地域資源を発信。  
通年カタログやサマーフェアチラシの発行。

- ・地域まるごと旅行商品の開発販売及びランドオペレーター機能構築事業

体験モニターやツアーの企画・販売を実施。

#### ◇おもてなしの向上

- ・まちの案内人会

会員増に繋げるため、研修会などへ参加。

#### ◇外国人観光客の受入態勢づくり

- ・外国人観光客の受入態勢づくり

外国人観光客受入研修を初めて開催し、受入態勢の強化を推進。

## 【C】 (チェック/確認)

数値目標である「観光施設入込客数 120 万人(11 施設)」に向け、上記の取組等を実施してきたが、平成 30 年度は 106.2 万人であった。

対象施設である 11 施設のうち、4 施設においては入込客数が前年度より増加（4 施設合計約 33,500 人増）となっている一方で、残り 7 施設は前年度より客数が伸び悩んでいる。（7 施設合計約 48,600 人減）

大きな要因としては、平成 30 年 4 月より休業状態である天然色市場があげられ、前年比約 32,000 人減となっている。

また、全施設に共通して言える要因として、5 月の悪天候や 7 月、8 月の豪雨災害、気温の上昇等の異常気象の影響により、繁忙期にあたる GW や夏休みの客数が前年度と比較し、約 35,500 人減となっている。

上記のことから、客数が増加傾向にある 4 施設については既存の取組強化を図り、平成 30 年度以上の集客を目指し、客数の減少傾向にある 7 施設については、集客につながる取組への改善を図るとともに、平成 29 年度実績の 110%増を目指していく必要がある。

## 【A】 (アクション /改善)

- ① 集客の確保に向け、各施設の情報共有を継続して実施していくとともに、ヤ・シィパークを中心とした観光クラスター形成に向けて観光関連業者と連携した企画等の開催を協議する。  
また、引き続き HP や SNS での情報発信や高知県内の主要観光施設にチラシを配布するとともに、豊浜 SA 等の県の玄関口となる場所での有料広告を活用し、情報発信の強化に取り組み、新規顧客(集客)の開拓を図る。
- ② OTA(Online Travel Agent)の活用や、夜間イベントや屋内展示の充実等の天候に影響されない集客方法について協議し、新規顧客やリピーターの確保につなげる。
- ③ れんけいこうち等の取組を各観光施設等と共有し、インバウンド向けの取組を強化し、香南市内への誘客を図る。
- ④ 旅行会社に対して、市への送客を促す支援施策の検討を行い、ターゲットを明確にし、他自治体との差別化を図っていくことで、新たな層の観光客の獲得を狙う。
- ⑤ 空港からの誘客を図るため、レンタカー利用者限定のチラシ(特典付き)を配布し、空き時間に市内へ足を運ぶきっかけ作りを行う。

## ○ 各事業の取組の精査

### 【主な意見】

- ◇ 観光全般的な意見について
  - SNS は重要な情報発信ツールであり、特に若者世代においては大きな宣伝効果が期待できる。中でも動画を投稿することもでき、ハッシュタグの付け方によって爆発的な拡散が可能なインスタグラムは若者を中心に利用者数を伸ばしていることもあり、少ない費用で効果が出すことができる。若者をターゲットとしたイベント・観光情報を発信する際は、インスタグラムを利用してはどうか。
  - R 元年年度の取組として観光 HP の作成とあるが、すでに香南市観光協会が HP を開設している。  
新たに市の HP に新設するのではなく、香南市観光協会の HP を充実させてはどうか。  
HP はパソコンよりも圧倒的にスマートフォンなどの携帯端末からのアクセスが多い傾向にあるが、香南市観光協会の HP はスマートフォン対応が不十分であることから、今後は掲載内容の充実とともに、スマートフォンからの閲覧を意識した HP 作りが求められる。
  - イベントや動画作りには県内の大学生等、若者目線の意見を取り入れることで、面白いものが

できると感じる。

#### ◇ サイクリング事業について

- 公共交通機関を利用した際、日常では味わえない素晴らしい景色に感動した体験談が今でも忘れられない。費用はかかったが、それに見合う価値がある。  
自転車なら、景色を楽しみながら気になった場所に気軽に立ち寄ることができるし、さらには観光パンフレットには掲載されていないような隠れた名所を見つけることもできる。  
地元で詳しい住民の方に協力してもらい、そのような隠れスポットを発信することができれば、周遊・誘客を促すとともにサイクリング利用者増にも繋がるのではないかと。

## ○ 第2期産業振興計画に向けての意見等

第1回部会では前年度実績の確認と今年度の取組に対するご意見をいただくに留まり、第2期産業振興計画に向けての意見交換には至らなかった。

今後は第2期産業振興計画に向けての意見交流を促し、早急に今後の方向性を定めていく。

## ○ 総評

前年度は5月の悪天候や7月、8月の豪雨災害、気温の上昇等の異常気象の影響により、繁忙期にあたるGWや夏休みの客数が減少したことから、昨年実績を下回る結果となった。

天候に影響されない安定した集客の確保に向け、夜間イベントや屋内展示の充実に取り組むとともに既存の取組のさらなる強化を行い、新規顧客の開拓やリピーターを増やしていく取組を実施していく必要がある。

また、今回の部会で得た意見を取り入れ、若年層を意識したInstagramの活用・観光HPのスマートフォン対応に取組、香南市を知って・訪れて・観光客自らが発信者となっていく仕組み作りの構築に向けた協議を継続的に行っていくことを確認。

部会開催日:H31. 4. 22(月)

## 令和元年度 第1回 香南市産業振興計画 サイクリング専門委員会報告書

(H30 年度の取組に対する評価と今後の取組の方向性)

◇ 部会委員   ◎ 部会長   ○ 副部会長

	氏名	所属	出欠
1	◎ 中村 文昭	サイクリングチーム Maze-Cle	出
2	○ 榮枝 俊一	香南市サイクリングターミナル	欠
3	富山 明秀	(株)技研製作所	出
4	山根 大輔	高知シクロクロス実行委員会	欠
5	大崎 優	高知大学次世代	欠
6	内村 幸子	創造広場「アクトランド」	出
7	西岡 親男	香南市交通安全指導員協議会	出
8	山中 雅也	高知県観光コンベンション協会	出
9	弘瀬 沙也香	香南市観光協会	出
10	齊藤 弓子	高知県地域支援企画員	出

	氏名	所属	出欠
1	岡林 栄一	商工水産課	出
2	萩野 大輔	商工水産課	出
3	田淵 浩平	商工水産課	出
4	小林 辰徳	商工水産課	出
5	岡田 千裕	商工水産課	出
6	齋藤 光明	商工水産課	出

### ☆ サイクリング専門委員会の開催内容

1.開会 あいさつ

2.自己紹介

3.委員長の選任

4.香南市産業振興計画について。

5.議事進行

① H30 年度の取組について

② R 元年度の取組について

③ H30 年度第 3 回産業振興計画サイクリング専門委員会での意見について

④ 観光部会に対する提言について

6.その他

7.閉会

## ○『目標数値』に対する精査について【PDCA】

### 【P】（目標値）

◇ H30 年度数値目標：『レンタサイクル利用者数 2,100 人 /年』

◇ 実績値：『レンタサイクル利用者数 2,156 人 /年』

◇ 評価：『A』

### 【D】（実行内容）

#### ○ 各種イベント開催

例年開催しているイベントを開催し、県内外の方々との交流人口の増加を図り、参加者の定着化、自転車の興味を持っていただく取組を実施。

#### ○ サイクリングに対するPR

地域おこし協力隊員を雇用し、香南市在住サイクリストを中心にサイクリング推進団体を市内に1団体設立。

#### ○ レンタサイクル利用促進

サイクリングターミナルの自転車の種類・ヘルメットの数を充実。

#### ○ サイクルオアシスの充実

新規サイクルオアシスの設置3件。

#### ○ タンデム自転車の利用強化

タンデム自転車の公道走行解禁に伴い、走行会を実施。また、パイロット講習会を実施。

#### ○ 交通マナーや交通事故等へのリスクに対する備え

レンタサイクル貸出し時の事故等への注意喚起の強化をし、「自転車安全利用五則」を広報等に掲載し啓発を推進。

### 【C】（チェック/確認）

数値目標であるレンタサイクル利用者数 2,100 人に向けて取組を実施した結果、2,156 人の利用があり、目標は達成。

平成 30 年 4 月より、地域おこし協力隊を雇用し、サイクリングチームの設立や、イベントの開催、市広報誌への自転車推進ページの連載など、PRの強化により利用者増加につながった。

(H30 年から 163 人増)

また、平成 30 年 9 月 1 日には、当時県下で唯一香南市が保有していた「タンデム自転車」の公道走行が解禁され、走行会等を開催し、メディアなどにも取り上げていただく動きを進めたことにより、

自転車の利用機会が広がり、利用者数の増加につながったと考えられる。

## 【A】（アクション /改善）

- ① 新たなレンタサイクル拠点を検討し、令和元年度は5月と7月に、ヤ・シィパーク内で「レンタサイクルのモニター実証」を実施する。  
アンケート等を取り、意見を集約した後、ヤ・シィパーク内へのレンタサイクルの設置や運営体制について検討し、実行に繋げていく。
- ② 「自転車安全利用月間」である5月に合わせ、香南市サイクリングターミナルにて『自転車の無料貸出』を実施する。  
また、無料貸出と併せて、サイクリングチーム「Maze-Cle（マゼクル）」を講師としたスポーツタイプの自転車の乗り方教室を開催することで、自転車に乗ることへのきっかけづくりを図る。
- ③ 小型のタンデム自転車を購入し、幅広い年齢層に対応できる整備を行い、レンタサイクルを推進する。

## ○ 各事業の取組の精査

### 【主な意見】

#### ◇ タンデム自転車講習会について

- パイロット養成の活動は評価する。県内の高校にも自転車競技部が増加傾向にあることから、協力要請を行い、若い人材の確保に繋げてはどうか。

#### ○ レンタサイクルについて

- 実績値の対象は3団体となっているが、香南市内でレンタサイクルを行っている業者もあることから、次回より4社とするのはどうか。
- 空の窓口である空港、空港でレンタサイクルが借りられるよう取組み、国内外の観光客の誘致を促し、香南市の魅力を感じていただく取組を実施できないか。  
また、自転車を2次交通として活用する取組を強化するために、公共交通機関の拠点にレンタサイクル、シェアサイクルを設置し、空港から自転車で香南市内の駅まで行き、そこから交通機関を利用して目的地に行けるような流れを作れないか。  
交通機関の拠点化を進めれば、イベント、お祭り時の渋滞の緩和に繋がると考えられる。

#### ◇ サイクリングに対するPRについて

- ▶ 年間を通してPR出来る冊子やポスターを作成してみてはどうか。  
昨年度の当委員会で話に出た、「キャッチコピー」や「ロゴマーク」を活用した冊子、ポスターを利用したい。
- ✧ キャッチコピーについて、事務局では良い案が出なかったため、当委員会の委員の皆さまも一緒にご検討いただきたい旨を依頼。

#### ◇ サイクルトレインについて

- ▶ 試験的に予土線で自由に自転車が乗降できる列車を導入したという話を聞いたが、ごめん・奈半利線でも導入できないか、くろしお鉄道に働きかけてほしい。

## ○ R元年度の取組に向けての意見 等

#### ◇ レンタサイクル利用者促進について

- ▶ ヤ・シィパークでレンタサイクルのモニターを行うとあるが、モニター終了後、サイクルスタンドを設置するのであれば、しまなみ海道のサイクリングの聖地のように、そこで写真を撮るといった目的も含まれる自転車管理場所という形で整備をすれば集客につながるのではないかと。
- ▶ 香南市にあってしまなみ海道にないもの、例えば、龍馬空港から飛び立つ飛行機のようなロケーションを大切にして取組を進めると、1つの武器になる。

#### ◇ ヘルメット着用率について

- ▶ 現在子どもたちのヘルメット着用率は低く感じる。  
香南市では小中学校のヘルメット購入の補助があるが、対象となるヘルメットは、重量があり、子どもが利用するのは大変だと感じる。また、通学時は活用するが、普段使いを避けられている。その理由の多くは、「見た目がカッコ悪い」という意見がほとんどである。  
安全性はもちろん最重要だが、デザイン性、ファッション性も考え、着用したいと思えるヘルメットを用意することも必要ではないか。  
安全性の基準を設定し、基準を超えるものは通学でも使用できるような、選択肢を増やすということも考えるべきである。

#### ◇ 観光部会への提言について

- ▶ 観光部会への提言を行う前に、香南市のサイクリングに対する取組が幅広く行っており、どこに向けての取組なのか、誰に対しての取組なのかがはっきりしていない。  
まずは、その部分を明確にし、土台を固めていくことですべての取組につながりが広がっていくのではないかと。

- ▶ 観光という部分を考えると、人を呼んでお金を稼ぐことが一番となるので、自転車を楽しむことと、観光で人を呼ぶということは別という観点を持つことが大事。
- ▶ 今回の観光部会への提言という形では、提言できる意見は出なかったが、観光部会で話し合われたことをサイクリング専門部会へ持って帰り、どういった部分で協力できるのかを協議する。

## ○ 第2期産業振興計画に向けての意見

香南市がサイクリングの取組を進めるうえで、「何を目指しているのか(方向性)」が伝わらない。現状、各市町村でも自転車の活用度合いが少なく、取組を始めたものの維持することにも苦労しているという実情。

まずは、市内の機運を高めて行かなければ、各取組を行ってもしぼんでいってしまう。

たくさんやりたいことがあり、どれも重要な内容であることは理解できるが、香南市として、何を指すか基礎土台を固めないとどっちつかずになるのではないかな。

また、土台がしっかりした場所でも苦労している。香南市はレンタサイクルだけでなく、様々な視点で取組むことを考えているので、基礎や方向性を作り上げていくことが必要不可欠である。

自転車を利用してもらう中で、普段自転車に乗らない方に楽しんでもらいたい、ロケーションを提供して楽しみ方を知ってもらいたい。

県外からの観光客の方に提案していくことがサイクリング事業の推進に効果的ではないかな。

## ○ 総評

幅広く取組を行っているが、香南市の目指すサイクリング像の土台がしっかり作れていないので、第2期産業振興計画に向けて、この1年で土台を固める協議を行っていく。

住民に向けた取り組みを深めていき、香南市の自転車に対する機運を上げていくのか、ターゲットを観光客にし、観光推進を行うのか等、香南市のサイクリングのあり方を見つめなおし、土台を固めることで、サイクリングが幅広い取り組みへとつながり、そこからさらに広く、福祉や教育、人生支援にもつながるような取組を推進していく。